

世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会 2016年2月11-15日 ロシア連邦トウーラ



2016年2月11日

FISU主催・第一回世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会が開幕。
栄光のトップスタート選手は戸田聖人（日本）（北海道大学）

オリエンテーリングはオリ
ンピックへの階段をまた一
つ登った。

2016年2月11-15日 ロシア・トウーラ
世界学生オスキーオリエンテーリング大会

戸田はレジェントとなった

FISU（国際学生スポーツ連盟）主催で開催される、初めての世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会が、ロシアで開催された。第一回大会の最初の種目となったスプリント種目において、トップでスタート切ったのは日本の戸田（北海道大学）。

どんな競技であろうと、抽選の結果であろうと、第一回目の世界大会のトップスタートというのはそれだけで価値がありそうな気がする。この日、ニッポンの戸田は世界のレジェンド（伝説）となったのだ。

同時に、いきなり世界の壁の高さを見せつけられたのもこのスプリント競技だった。これは手ごわい。

スプリント女子結果（2月11日）

1	MORSKY Sonja	FIN	0:10:13.1
2	KASKINEN Mira	FIN	0:10:18.7
3	KUDRE Daisy	EST	0:10:30.2
22	渡辺志保	日本	0:19:35.1
23	島貫なつみ	日本	0:19:35.8
24	西方美羽	日本	0:19:49.9
25	吉岡梨花子	日本	0:25:59.0

スプリント男子結果（2月11日）

1	BELOMAZHEV S.	BUL	0:10:55.4
2	YAZYKOU Yury	BEL	0:11:00.9
3	KOTRO Tuomas	FIN	0:11:15.9
26	石原拓巳	日本	0:15:04.5
28	岸祥太郎	日本	0:19:27.6
29	後藤孔要	日本	0:19:50.7
30	戸田聖人	日本	0:21:43.5



ドローン撮影された戸田の映像は全世界に生中継された。

見せるオリエンテーリング！

2日目に行われた種目は「パシュート」。聞きなれないこの種目。フット0で言うところの「チェイシング形式」の競技である。



パシュートスタート生中継画像

パシュート種目は前日のスプリント種目のタイム差で次々と選手がスタートする。競技は前日のスプリント種目の合計タイムで競われる。つまり先にフィニッシュした者が勝つ。観戦している者に判りやすいだけでなく、競い合っている選手にも自分の勝負がリアルタイムに判る。

世界学生大会、そして冬季ユニバーシアード、冬季オリンピックと進むにつれ、こうしたエリート競技会では観戦者ウケ、メディア受けする種目が重要視されてくるだろう。

パシュート競技女子結果(2月12日)

1	ULVENSOEN A.	NOR	0:22:27
2	PUSA Sanna	FIN	0:23:02
3	MORSKY Sonja	FIN	0:23:19
20	渡辺志保	日本	0:36:38
21	島貫なつみ	日本	0:40:44
23	西方美羽	日本	0:53:31
24	吉岡梨花子	日本	1:02:39

パシュート競技男子結果(2月12日)

1	BELOMAZHEV S.	BUL	0:33:01
2	LINNAINMAA T.	FIN	0:33:25
3	UUSITALO Jyri	FIN	0:33:31
26	石原拓巳	日本	0:52:30
28	岸祥太郎	日本	0:58:07
29	後藤孔要	日本	1:06:31
30	戸田聖人	日本	1:13:04



パシュート競技でベラルーシの選手に競り勝った島貫ひとみ(日本)(旭川大学)。この距離差、タイム差がそのまま競技結果となる。

国別対抗で熱くなる!

3日目も熱くなる競技が組まれた。男女1名ずつ合計2名で行われる国別対抗のリレー競技だ。1回あたり短い距離のコースを滑り、2名で合計6走区を滑るのだ。

- ・国別対抗
- ・一斉スタート
- ・何度も会場でチェンジオーバー
- ・男子エースと女子エースの総合力

盛り上がらないわけがない。会場からのネット中継画像にも何度も選手が現れるし、順位の変動も頻繁に起こる。まさに見せるためのスポーツの形がスプリントリレーなのだ。



競り合う岸祥太郎(日本)(北海道大学)

国別対抗男女混合スプリントリレー(2月14日)

1	ノルウェー	0:35:35.1
2	フィンランド	0:36:05.2
3	フィンランド2	0:36:14.6
4	ロシア	0:37:07.3
5	ノルウェー2	0:37:56.1
6	チェコ	0:38:20.2
7	ブルガリア	0:38:26.8
8	ロシア2	0:38:27.3
9	チェコ2	0:39:15.3
10	ベラルーシ	0:39:27.1
11	エストニア2	0:40:49.3
12	エストニア	0:42:05.0
13	スウェーデン	0:45:56.5
14	スロバキア	0:48:15.6
15	日本	0:49:20.2
	(石原拓巳・渡辺志保)	
16	ベラルーシ2	0:50:54.3
17	日本2	0:59:31.1
	(岸祥太郎・島貫なつみ)	

一斉スタートで熱くなる!

競技4日目の最終日に行われたのは、ミドルディスタンス競技。一斉スタートし、2枚の地図を使ったワンマンリレー形式で行う。いちばん最初にフィニッシュしたものが優勝者となる。最後の最後まで観客ウケ・メディア受けを狙った競技形式だ。

こうしたワンマンリレー形式の競技はスキーオリエンテーリングではロング種目に採用されるのが今までの慣例だったが、今回の世界学生大会ではミドル種目で採用されている。何度も会場や中間計時を通過する上に、ミドル種目の場合は逆転が多く発生しやすい。どこまでも観客志向の競技会なのだ。



ミックスリレー日本チーム 渡辺志保(静岡大学)から石原拓巳(岩手大学)へチェンジオーバー

ミドル競技男子(2月15日)

1	BELOMAZHEV S.	BUL	0:35:37,5
2	UUSITALO J.	FIN	0:35:48,4
3	LINNAINMAA T.	FIN	0:35:56,8
26	石原拓巳	日本	0:53:08,6
28	岸祥太郎	日本	0:58:26,6
29	後藤孔要	日本	1:06:14,5
30	戸田聖人	日本	1:07:57,2

ミドル競技女子(2月15日)

1	KASKINEN M.	FIN	0:34:21,1
2	ULVENSOEN A.	NOR	0:34:33,7
3	MORSKY S.	FIN	0:34:45,8
17	島貫なつみ	日本	0:47:02,3
18	渡辺志保	日本	0:47:36,7
21	吉岡梨花子	日本	1:14:22,0
22	西方美羽	日本	1:18:12,4

充実したネット中継

今回の大会は中継が充実していた。おそらく現地にいるのと同じか、それ以上の情報がインターネットの向こう側に配信されていただろう。

各所に配置されたカメラを次々にスイッチさせる放送設備、ドローンを使った迫力ある映像、リアルタイムに字幕が入って速報が表示される中継画像。

会場では英語とロシア語の二か国語で中継放送が行われ、そのままネット映像に乗せて配信されている。

さらに全選手にGPSが装着され、競技の進行状況がリアルタイムに地図上に表示される。

もう完璧！これ以上望むものは日本語中継だけ？



Web上で生中継されたGPSトラッキングの画像。石原拓巳(日本)が、ブルガリア選手、スウェーデン選手と競り合っている様子を地図上で見ることができる。

ロシア2019に向け

この世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会はIOF(国際オリエンテーリング連盟)の主催ではない。この大会はFISU(国際学生スポーツ連盟)の主催大会だ。FISUはオリエンテーリングだけでなく、あらゆる学生スポーツを世界的に統括している団体である。有名な事業としては「ユニバーシアー

ド」がある。これは学生版オリンピックとも言うべき事業で、2年に一度、西暦の奇数年に各スポーツが一堂に集まって行う学生スポーツの祭典だ。そのために各国は選手団を送り込んでくる。

残念ながらオリエンテーリングは、フット、スキー、MTB いずれもユニバーシアーの種目にはなっていない。

だが2019年にロシアで行われる冬季ユニバーシアーではスキーオリエンテーリングが正式種目として実施されることが決定されている。FISU主催の国際マルチスポーツイベントでオリエンテーリングが実施されるのは快挙である。



FISU(国際学生スポーツ連盟)のロゴ

ユニバーシアーが開催されない西暦の偶数年、FISUはスポーツ競技ごとの世界学生大会を開催している。フットオリエンテーリング競技は学生世界大会が開催されるようになって久しいが、スキーオリエンテーリングは2016年の今回から世界学生大会が始まった。

IOF(国際オリエンテーリング連盟)も支援

冬季ユニバーシアーでの競技実施の先に、冬季オリンピックでの競技実施を狙っているIOF(国際オリエンテーリング連盟)では、今回のスキーオリエンテーリングの世界学生大会開催を大いに歓迎している。IOFの会長も、今回の開催にあたって現地入りしている。

IOFのオリンピックプロジェクトは冬季オリンピック入りそのものに向かって努力もしているが、冬季ユニバーシアーに向けての人的、技術的支援も行ってゆくことになるだろう。



IOF(国際オリエンテーリング連盟)のロゴ

日本の貢献度は大きい

こうしたオリエンテーリングのムーブメントに反応し、男女4名、合計8名の選手を送り込んだ日本の貢献度は大変に大きい。

リレーの結果を見てもらえればわかるが、日本以外の参加国はすべてヨーロ

ッパである。もし日本が参加しなかったら「ヨーロッパ学生スキーオリエンテーリング選手権」になるところだった。胸を張って「世界」と呼べる大会になったのは、アジアから日本が大きな選手団を派遣したことによる。

開催国のロシアではこの意味をしっかりと理解してくれていたようだ。今までのロシアのイメージを覆すようなホスピタリティで日本選手団を迎え入れてくれたという。



2月14日はバレンタインディ。日本流の文化をロシアの運営者にプレゼント。若者らしい国際交流こそが世界平和につながる国際スポーツイベントの目的だ。(大会の公式アカウントからツイッターで発信された写真より)

次はエストニア2018

2019年に向けてもうワンステップある。2018年には世界学生大会がエストニアで開催される。これにも日本選手を派遣すべく学生獲得活動を行う。こうした地道な獲得活動が、ひろくはこの競技の普及になってゆくはずだ。



日本の課題は選手強化

今の日本のスキーオリエンテーリングの実力では2019年の冬季ユニバーシアーに JOC から派遣してもらえるレベルにはないだろう。まずは強化が課題だ。

競技を終えて

柴田達真(日本選手団監督)



今回、初めて監督として海外遠征をしました。この1年間、大会に参加する学生の発掘、トレーニング機会の創出や指導など、出来る限りのことはしてきたと思っています。成績自体は芳しくありませんが、選手のみならず、色々な環境の中でトレーニングを重ね、今持てる力を出しきってくれたものと感じています。

選手自身も、まだまだ大きな差を感じる厳しい結果に終わっているとコメントしていますが、実際は実力を鑑みるに現段階としては想定通りの結果だったと思っています。スキーを初めて、1、2年の選手がほとんどの中、世界学生選手権の持つ意義を考えた上で、日本のスキーオリエンテリング界にとっては、「投資」と位置づけてスタートしているものです。

経験値が少ない中で、男女それぞれ4名が参加していること、各種目で多少は海外選手と競いあう事ができたこと、などを考えると、「成功」と評価しても全く問題ないと思っています。選手はそれぞれ悔しい思いもしていますし、この先に向けて、さらなる固い決意表明もしてくれています。

かつての日本代表として、そして今回の監督として、「次回こそ」という思いを持ってくれることほど、嬉しいことはありません。学生たちの今回のチャレンジに大いに敬意を表するとともに、次回以降さらにスキーオリエンテリングの仲間が増えていくことを期待しています。

渡辺志保(静岡大学)



皆様あたたかい応援ありがとうございました。第1回目の世界学生選手権でFISUが主催ということもあり、大会の盛大さ、おもてなしなど感銘を受けることだらけの素晴らしい大会でした。

レースについては、同じトレインを使っていることもあり、回数を重ねる毎に調子を上げていくことができました。私は、地図読みでいつも、ミスをする事が多いのですが、今大会では、スプリント以外は、ツボることがなかったのも、この調子でこれからもっと地図読みの精度を上げていきます。

私は、どちらかというと長い距離を走れるレースが好きなので、ミドルに重きを置いていたのですが、ミドルレースの中盤で急な沢を横切の際、きれいに前のめりに転げ、マップホルダーがぐんにやりと曲がってしまいマップが見れなくなったため、手に持って残りを走りました。この自業自得なアクシデントによりタイムロスしてしまいとても悔しかったです。

今回の大会では、たくさんの収穫と悔しい思いができた良い経験となりました。この経験をこれからのフット0、スキー0に活かし結果に繋げていきます。

島貫なつみ(旭川大学)

今回は4種目に出場しました。同じトレインを使っていることもあり、試合を重ねるごとにミスも減っていきました。しかし、1泊までのミスがタイムに影響している試合が多々あり、試合序盤の冷静さ、地図読み、判断力の正確さをもっと高めていく必要性をもっと感じた試合となりました。もっと攻めの走りとう位に食い込んだ走りができるようにしたいです。

今回の参加にあたって、たくさんの方々にご支援、ご声援していただきました。毎日、さまざまな応援のメッセ

ージをいただきとても励みになりました。本当にありがとうございました。今回の大会で得た経験を次へと繋げていきたいと思っています!!



西方美羽(北海道大学)



今回は初めての海外、初めての国際試合だったのですが、とても楽しむことができたように思います。

レースは1日目のスプリントはうまくいったものの、パシュートとミドルでは中盤以降に大きなミスをしてしまったので、最後まで気を抜かず走り続けることが大事だと感じました。タッチフリーということもあり2日目以降はポスト周りで比較的スムーズに動くことができたので、その点はよくできたと思います。

他の選手達と比べて圧倒的にスピードが足りてないのでスキーの練習がもっと必要のように感じました。良いところと悪いところの両方を知ることができて良い経験になったと思います。

最後になりましたが、大会前から本日までたくさんの応援、ご支援などありがとうございました。

吉岡梨花子(北海道大学)



皆様、応援やアドバイス、励ましの言葉など、ありがとうございました。今回初めて、国際大会に参加しましたが、レベルの高さに圧倒され、あっという間に終わってしまいました。最初のスプリントでは、緊張や焦りからか、地図読みが上手くいかない場面が多かったように思います。次のレースからは、自分のペースで着実に行くことを目標に取り組みました。結果、ミドルでは、大きなミスなく終える事ができたと思います。

この大会に参加させて頂き、多くの課題が残りました。スキーのスピードが全く違うのは、これからの最も大きな課題の一つだと感じました。これからも頑張っていきたいと思っています。

石原拓巳(岩手大学)



この大会は、非常に多くのスタッフやボランティアの方々等の力によって、盛大なイベントになっており、関係者の人々のホスピタリティ、及び大会を盛り上げようとする強い意志に、私は参加する一人の人間として大きく感動しました。

さて、レースでは、他国選手と私との走力、判断力及びその速さに大きな

差があると痛感しました。私は自分の進む早さに地図読みが追いつかずにつぶることが多く、走力ももちろんですが特に地図読みの力を向上させなければならぬと思いました。最後に、春にスキー0を始めてからここまでご指導、ご支援を賜り、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

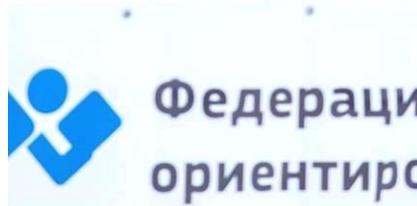
岸祥太郎(北海道大学)



今回は全レースで大きなミスを連発してしまい、後悔が残る結果となりました。しかし、画像でしか見た事が無いようなコースを滑ることが出来たのはとても面白く、良い経験になりました。今後は読図能力とスキーのスピードを高めるためにトレーニングに励みたいと思います。

最期になりましたが、今まで応援して下さい下さった方々、本当にありがとうございました。

後藤孔要(筑波大学)



外国人選手のスピード、体格。クモの巣の様なモバイルトラック。演出用のGPS、解説、動画配信。初のレース形

式。多くのカメラマンと観戦客。運営、ボランティアのサポート。ロシアの食事、気候、文化。外国人選手と交流。常に刺激を受け続ける大会でした。

すべてのレースが終わった今強く思うことは”速くなりたい、外国人選手と競い合いたい”ということ。多くの応援、支援を受けて臨んだ大会でした。貴重な経験ができたと考えています。この経験を活かし、自分自身の成長と日本のスキー0の成長に貢献できるような活動していきたいと思っています。

戸田聖人(北海道大学)



初めての世界大会は、驚きと戸惑いを感じるうちに大会が終わってしまいました。大勢のボランティアと観衆、自分のトップスピード以上で走り続ける海外代表選手、GPSなど初めてのことに振り回されっぱなしでした。

スプリント、パシュート、ミドルすべてのレースで大きなミスをし、悔いが残る結果となってしまいました。自分のGPSトラックを見て、どこが悪かったのかを洗い出して修正したいと思います。また、トップ選手の走法、ショートカットの仕方など世界大会でしか見ることのできないであろうことから、多くのことを学ぶことができたと思います。

今大会で自分に足りないと感じたこと、トップスピードの向上や特にスピードを出したままの読図を、来シーズンまでにトレーニングを行い可能にしたいです。

最後になりましたが、昨年度初めてスキーオリエンテーリングに触れた時から今日までのご指導、ご支援ありがとうございました。これからもどうかよろしくお願いいたします。

(記事・木村佳司)